

算出例

温室効果ガス排出量の削減効果及び資源循環の効果算出シート

事業名：〇〇株式会社 混合廃棄物の選別・再生ペレット製造事業

■該当する類型

類型	3
----	---

■基準シナリオの種別

混合廃棄物の事業実施前の処理

令和8年9月

■目次

1	シナリオの概要と機能単位
2	算出範囲
3	インベントリデータ一覧
4-1	算出結果_温室効果ガス排出量の削減効果（製品バスケット法の場合）
4-2	算出結果_温室効果ガス排出量の削減効果（負荷回避法の場合）
5-1	算出結果_資源循環の効果（類型①）※
5-2	算出結果_資源循環の効果（類型②）※
5-3	算出結果_資源循環の効果（類型③）※
6	改訂履歴

※該当する種類の様式のみ作成すること

1.シナリオの概要と機能単位

改訂番号 2 入力日 令和8年9月1日

事業名：〇〇株式会社 混合廃棄物の選別・再生ペレット製造事業

■該当する類型

類型	3
----	---

■基準シナリオの種別

混合廃棄物の事業実施前の処理

【入力上の注意】

- ・フォントサイズは8pt以上とすること。
- ・文字切れがないか確認し、必要に応じて行の高さを調整すること。

【入力上の注意】

- ・入力日を記載

【「基準シナリオの種別」 入力上の注意】

（〇〇には対象とする廃棄物を記載）

- ・類型1の場合、「〇〇に係る全国平均の処理」と入力。
- ・類型2の場合、「〇〇に係る通常の再資源化事業」と入力。
- ・類型3の場合、「事業実施前（設備更新前）」または「同種類の通常の設備が導入された事業」のうち、基準シナリオとして採用した設定を入力。

【「基準シナリオ」 入力上の注意】

- ・類型③において、基準シナリオを「同種類の通常の設備が導入された事業」と設定した場合には、「同種類の通常の設備」の設備の種類と性能（出力、処理能力）、その設備に定めた根拠を入力すること。

【「機能単位」 入力上の注意】

- ・対象廃棄物1tあたりの種類と割合は、両シナリオにて等価となるよう設定
- ・再生材、及びシナリオ中発生するものの種類と割合が異なっても構わない。差異が生じた場合は代替効果を算出する。（シート2 参照）

■シナリオの概要と機能単位

記入項目		事業シナリオ	基準シナリオ
シナリオ の概要	対象廃棄物	混合廃棄物（廃プラスチック＋金属くず等）（一般廃棄物）	混合廃棄物（廃プラスチック＋金属くず等）（一般廃棄物）
	再資源化の方法	AI選別の導入によるマテリアルリサイクル事業。基準シナリオの手選別と比べ、AI選別を導入することで選別効率が改善し、混合廃棄物中の廃プラスチックの回収率が35pt向上し、95%となった。	類型③による申請であり、事業実施前（設備更新前）を基準とする。
			出典
			事業実態（事業者ヒアリングより）
機能単位	対象廃棄物を構成する素材や物質の種類と割合	対象廃棄物1tあたり廃プラスチック類（一般廃棄物）0.800t、金属くず等（一般廃棄物）0.200t	対象廃棄物1tあたり廃プラスチック類（一般廃棄物）0.800t、金属くず等（一般廃棄物）0.200t
	製造する再生材の種類と割合	再生PPペレット0.760t	再生PPペレット0.480t
	再生材以外に発生するものの種類と割合	残渣（埋立）0.240t	残渣（埋立）0.520t
温室効果ガス排出量の削減効果の算出方法に負荷回避法を用いる場合に○と入力する			

2.算出範囲

事業名：〇〇株式会社 混合廃棄物の選別・再生ペレット製造事業(類型3)

■各シナリオのプロセス

事業A：事業シナリオの再資源化プロセス

事業B：基準シナリオに再資源化や熱回収の工程があり、事業シナリオにはその工程がない場合、その再資源化や熱回収によって得られる製品・サービスの天然資源由来の製造プロセス

基準A：基準シナリオの処理プロセス

基準B：事業シナリオの再資源化と同じ製品・サービスの製造におけるプライマリー材での製造プロセス

■算出範囲

類型①：A⇒収集運搬から残渣処理処分を含む再資源化等のプロセスまで B⇒天然資源由来の製品製造プロセスまで

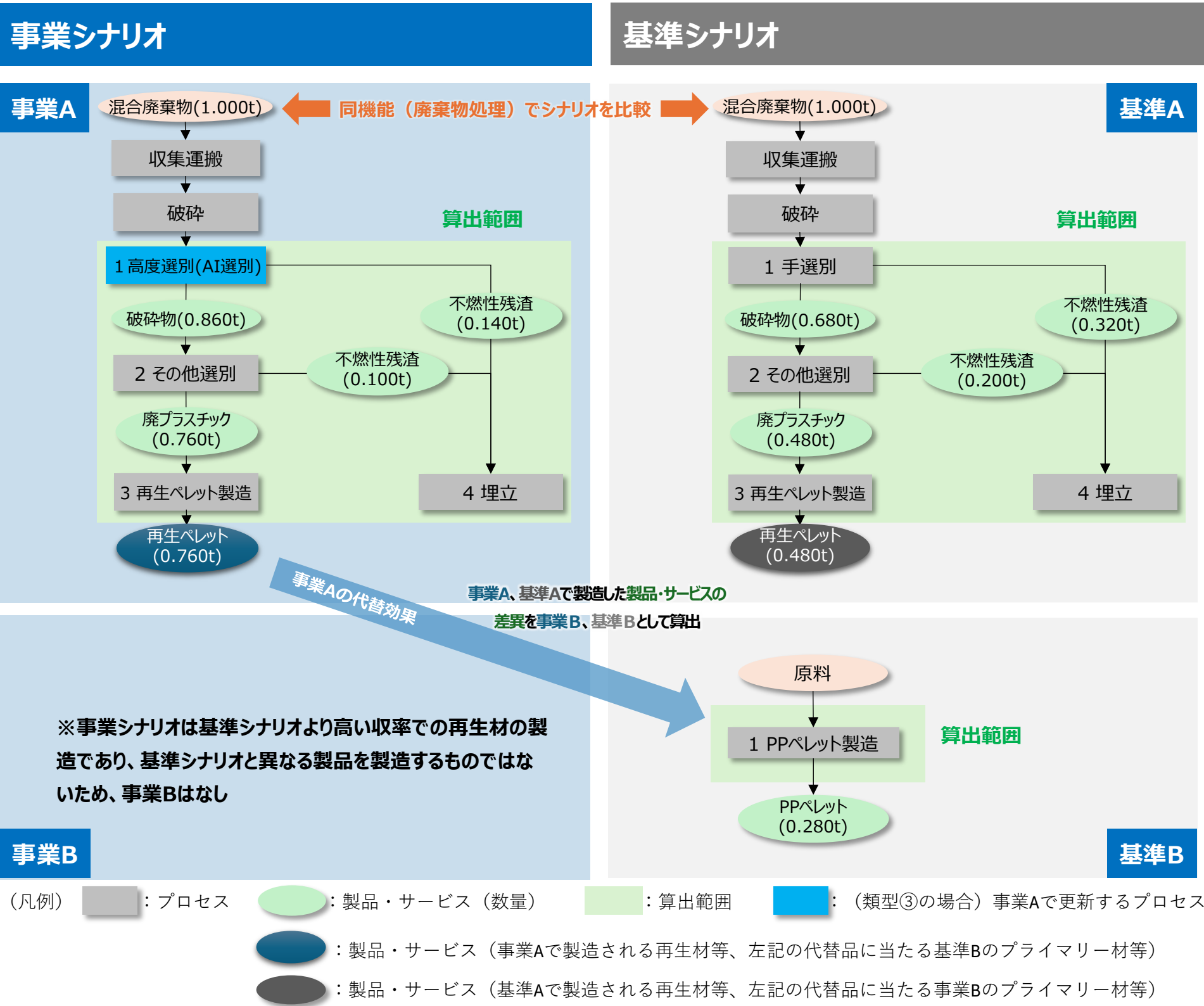
類型②：A⇒収集運搬を除く残渣処理処分を含む再資源化等のプロセスまで B⇒天然資源由来の製品製造プロセスまで

類型③：A⇒収集運搬を除く残渣処理処分を含む再資源化等のプロセスのうち事業シナリオで設備更新等を実施するプロセスによって影響を受けるプロセス B⇒天然資源由来の製品製造プロセスまで

■物質収支

算出範囲（事業A、基準A、事業B、基準B）ごとに、「受け入れられる廃棄物・製品」と「外部へ渡される廃棄物・製品」の数量を記載すること。

なお、算出範囲内で、選別工程や熱処理工程などにより複数の中間生成物が発生または製造される場合は、それぞれの数量を記載すること。



【入力上の注意】

- ・ここでいう「受け入れられる廃棄物・製品」とは、外部から各算出範囲に投入される廃棄物や製品・サービスの数量を指す。
- ・「外部へ渡される廃棄物・製品」とは、各算出範囲から外部へ廃棄または供給される廃棄物や製品・サービスの数量を指す。
- ・数量は重量を基本とする。m3、Lなど、重量に換算できる単位は、できるだけ重量で記述すること。ただし、電力量、熱量など重量換算が難しい場合は、それぞれの単位を用いて記述することができる。

【入力上の注意】

- ・算出範囲のプロセスは採番をした上で、図中のプロセス凡例に番号とプロセス名を併記すること。
- ・算出範囲のプロセスは緑色の四角で囲い、算出範囲と物質収支を明示すること。
- ・算出範囲のプロセスが多いなどの理由で、作図に必要なスペースが不足する場合は算出範囲について別ファイルで提出することを認める。
- ・両シナリオの廃棄物と、プロセスが生み出す製品・サービスより等量・等質（機能が等価という意味）であるものをそれぞれ両矢印で示すこと。
- ・「算出範囲」が本シートに収まりきらない場合は、別ファイルで提出してもよい。その場合は以下のとおりで提出すること。
- ・Word、Excel、PowerPoint、PDFのいずれかのファイルによること。
- ・A4サイズで印刷されることを念頭に置き、10pt以上のフォントを用いて作成すること。
- ・ファイル名は「【算出範囲】申請者名_事業名.拡張子」とすること。
- ・類型②の場合、収集運搬のプロセスがシナリオ間で異なる場合、算出範囲に含め、同一の場合は算出範囲から省略することができる。

・事業シナリオ・基準シナリオで同等の製品・サービスを製造する場合、生産量が多いほうのシナリオに合わせ、生産量が少ないほうのシナリオの範囲Bで天然資源由来の製品・サービスの製造プロセスの負荷を計上する。この例では、基準A・事業Aのどちらも熱回収による発電をおこなっているが、基準Aの発電量のほうが大きい。したがって、天然資源由来の発電プロセスは事業Bにのみ設定される。

・範囲Bにおける天然資源由来の製品・サービスの製造には、機能単位として扱われる製品・サービスの数量の記載を必須とする。一方、原料となる天然資源の数量の記載は任意とする。

3.インベントリデータ一覧

事業名：〇〇株式会社 混合廃棄物の選別・再生ペレット製造事業(類型3)

(1) 温室効果ガス排出量の削減効果に関するインベントリデータ

①事業シナリオ

カテゴリ	No.		プロセス	区分	数値	単位	活動量等の数値を計算した場合に 用いた値、数式	出典における数値の定義・考え方	出典	出典番号
	プロセス	参照								
事業A	1	a	高度選別（AI選別）	活動量	0.840	kWh	—	事業実態から消費電力を取得。	事業実測（事業者ヒアリングより）	1
		b		排出係数	0.423	kgCO2e/kWh	—	出典より電気事業者からの排出係数の平均値を取得。	環境省「温室効果ガス排出量 算定・報告・公表制度 電気事業者別排出係数一覧 令和7年提出用」 p18	2
	2	a	その他選別	活動量	45.700	kWh	—	事業実態から消費電力を取得。	事業実測（事業者ヒアリングより）	1
		b		排出係数	0.423	kgCO2e/kWh	—	出典より電気事業者からの排出係数の平均値を取得。	環境省「温室効果ガス排出量 算定・報告・公表制度 電気事業者別排出係数一覧 令和7年提出用」 p18	2
	3	a	再生ペレット製造	活動量	2,280.000	kWh	$3,000\text{kWh/t} \times (1\text{t} \times 0.80 \times 0.95) = 2,280\text{kWh}$	事業実態から取得した再生ペレット1t製造当たりの消費電力3,000kWhに、混合廃棄物中の廃プラスチックの組成およびAI選別のプラスチック回収効率を乗じた製造量を乗じることで混合廃棄物1t当たりの消費電力を求めた。	事業実測（事業者ヒアリングより）	1
		b		排出係数	0.423	kgCO2e/kWh	—	出典より電気事業者からの排出係数の平均値を取得。	環境省「温室効果ガス排出量 算定・報告・公表制度 電気事業者別排出係数一覧 令和7年提出用」 p18	2
	4	a	埋立	活動量	0.240	t	$1\text{t} \times (1 - 0.800 \times 0.950) = 0.240\text{t}$	事業実態から混合廃棄物中の廃プラスチックの組成およびAI選別のプラスチック回収効率を取得し、これに乗じたプラスチック回収量を廃棄物の処理量から除いて埋立に回る量を求めた。	事業実測（事業者ヒアリングより）	1
		b		排出係数	0.000	kgCO2e/t	—	廃プラスチック類の直接埋立にかかる排出係数	プラスチックは埋め立て時に無機化されないと仮定し、0と設定	3
事業B	1	a	—	活動量	—	—	—	—	—	—
		b		排出係数	—	—	—	—	—	—

②基準シナリオ

カテゴリ	No.		プロセス	区分	数値	単位	活動量等の数値を計算した場合に 用いた値、数式	出典における数値の定義・考え方	出典	出典番号
	プロセス	参照								
	1	a	手選別	活動量	320.000	人時	$2\text{人} \times 8\text{時/日} \times 20\text{日} = 320\text{人時}$	事業実態から作業員は2人、1日当たりの稼働時間は8時間、1か月の営業日は20日として、これらに乗じて手選別の活動量を求めた。	事業実測（事業者ヒアリングより）	1
		b		排出係数	0.000	kgCO2e/人時	—	事業実態から機器を用いない手選別の排出係数はゼロとした。	事業実測（事業者ヒアリングより）	1
	2	a	その他選別	活動量	28.900	kWh	—	事業実態から消費電力を取得。	事業実測（事業者ヒアリングより）	1
		b		排出係数	0.423	kgCO2e/kWh	—	出典より電気事業者からの排出係数の平均値を取得。	環境省「温室効果ガス排出量 算定・報告・公表制度 電気事業者別排出係数一覧 令和7年提出用」 p18	2

【入力上の注意】

- ・フォントサイズは8pt以上とすること。
- ・文字切れがないか確認し、必要に応じて行の高さを調整すること。

【入力上の注意】

- ・本シートは**廃棄物1t当たりの処理**に係る活動量、排出係数を入力する。
- ・「活動量等の数値を計算した場合に用いた値、数式」には、活動量に影響する収率、機器の処理能力等の条件があり、それらを掛け合わせて活動量等を算出した場合に、計算に用いた元の数値と計算式を入力する。
- ・「出典における数値の定義・考え方」には、出典におけるデータの範囲（排出係数の例：鉄鋼製品の製造/ データの範囲： 鉄鉱石の採掘、輸送、製鉄、製鋼、 casting、圧延など）、設定条件（例：データ整備をおこなった地域、対象の技術、データのばらつき等データ採用にあたり留意するべき事項、など）等を明記すること。
- ・活動量を申請者自身の測定値より算出に用いる場合はガイドライン4.1.4を参照し、データの品質についても留意すること。（具体的には、データを測定した期間、データのばらつき・統計的な確からしさに関して記述すること）
（実測値を算出に用いる例：あるプロセスについて、廃棄物1t当たりの電力消費量を計算する場合/ 〇〇〇年〇月～〇〇〇年〇月（12か月間）の〇〇プロセスの消費電力量の合計値を配電盤で計測した（XXXkWh）。同期間の当該プロセスの廃棄物処理量（YYYt）で消費電力量を割り算することで廃棄物1t当たりの電力消費量を算出した。
 $XXX\text{ kWh} / YYY\text{ t} = ZZZ\text{ kWh}$
なお、〇〇〇年〇月～〇〇〇年〇月の月ごとの廃棄物1t当たりの電力消費量は平均値±5%の範囲内に収まることを確認済み）
- ・「出典における数値の定義・考え方」にて、他のインベントリデータを参照する場合は、下記のルールにて参照番号を付記して記載のこと。
記載例：②基準A-3a
= ②基準シナリオ カテゴリ： **基準A**、プロセス・参照番号： **3a** を示す。
- ・「No./プロセス」には、「2.算出範囲」シートにて、フロー記載のプロセス凡例と同じプロセス名、番号を用いること。
- ・「プロセス」には、「2.算出範囲」シートのフローに記載のプロセス凡例の名称と同じものを記載のこと。
- ・「出典」に記載の引用箇所のページ番号、数値について、算出シートには出典資料として添付すること。
出典資料は、引用箇所が分かるようマークを付けたうえで該当ページを提出のこと。
- ・日本語以外の出典を用いる場合は日本語訳も添付すること

基準A	3	a	再生ペレット製造	活動量	1,440.000	kWh	$3,000\text{kWh/t} \times (1\text{t} \times 0.80 \times 0.60) = 1,440\text{kWh}$	事業実態から取得した再生ペレット1t製造当たりの消費電力3,000kWhに、混合廃棄物中の廃プラスチックの組成およびAI選別のプラスチック回収効率を乗じた製造量で割ることで混合廃棄物1t当たりの消費電力を求めた。	事業実測（事業者ヒアリングより）	1
		b		排出係数	0.423	kgCO2e/kWh	—	出典より電気事業者からの排出係数の平均値を取得。	環境省「温室効果ガス排出量 算定・報告・公表制度 電気事業者別排出係数一覧 令和7年提出用」 p18	2
	4	a	埋立	活動量	0.520	t	$1\text{t} \times (1 - 0.800 \times 0.600) = 0.520\text{t}$	事業実態から混合廃棄物中の廃プラスチックの組成およびAI選別のプラスチック回収効率を取得し、これに乗じたプラスチック回収量を廃棄物の処理量から除いて埋立に回る量を求めた。	事業実測（事業者ヒアリングより）	1
		b		排出係数	0.000	kgCO2e/t	—	廃プラスチック類の直接埋立にかかる排出係数	プラスチックは埋め立て時に無機化されないと仮定し、0と設定	3
基準B	1	a	PPペレット製造	活動量	0.280	t	$1\text{t} \times 0.800 \times (0.950 - 0.600) = 0.280\text{t}$	事業実態より混合廃棄物中の廃プラスチックにプラスチック回収効率の差を乗じることで再生ペレット製造量の差分を求めた。	事業実測（事業者ヒアリングより）	1
		b		排出係数	1,483.000	kgCO2e/t	—	出典よりPPペレットの製造における排出係数を取得。	プラスチック循環利用協会（2022）「LCAを考える～「ライフサイクルアセスメント」考え方と分析事例～」 p26	4

（２）資源循環の効果に関するインベントリデータ

③事業シナリオ

カテゴリ	No.	再生材	数値	単位	活動量等の数値を計算した場合に用いた値、数式	出典における数値の定義・考え方	出典	出典番号
事業A	1	再生ペレット	0.760	t	$1\text{t} \times 0.800 \times 0.950 = 0.760\text{t}$	事業実態より混合廃棄物中の廃プラスチックにプラスチック回収効率を乗じることで再生ペレット製造量を求めた。	事業実測（事業者ヒアリングより）	1

④基準シナリオ

カテゴリ	No.	再生材	数値	単位	活動量等の数値を計算した場合に用いた値、数式	出典における数値の定義・考え方	出典	出典番号
基準A	1	再生ペレット	0.480	t	$1\text{t} \times 0.800 \times 0.600 = 0.480\text{t}$	事業実態より混合廃棄物中の廃プラスチックにプラスチック回収効率を乗じることで再生ペレット製造量を求めた。	事業実測（事業者ヒアリングより）	1

3-1.インベントリデーター一覧 設備リスト

改訂番号 2 入力日 令和8年9月1日

事業名：〇〇株式会社 混合廃棄物の選別・再生ペレット製造事業(類型3)

3.インベントリデーターにおいて、「区分」の活動量を電力消費量とした場合にそのプロセスに関わる設備リストをプロセス毎に作成する。

カテゴリ	No.	プロセス	設備名称	台数	定格出力[kW]	負荷率[%]	消費電力[kW]	備考
	プロセス名							
事業A	1	高度選別（AI選別）	AI選別装置(XX社XXX-XXXX)	1	1.500	70.000%	1.050	1時間当たり1t処理
			プロセス内電力 小計				1.050	

カテゴリ	No.	プロセス	設備名称	台数	定格出力[kW]	負荷率[%]	消費電力[kW]	備考
	プロセス名							
事業A	2	その他選別	プラスチック選別装置(XX社XXX-XXXX)	1	65.000	70.000%	45.500	1時間当たり1t処理
			プロセス内電力 小計				47.600	

カテゴリ	No.	プロセス	設備名称	台数	定格出力[kW]	負荷率[%]	消費電力[kW]	備考
	プロセス名							
基準A	2	その他選別	プラスチック選別装置(XX社XXX-XXXX)	1	37.000	70.000%	25.900	1時間当たり1t処理
			プロセス内電力 小計				25.900	

【入力上の注意】

- ・フォントサイズは8pt以上とすること。
- ・文字切れがないか確認し、必要に応じて行の高さを調整すること。

【入力上の注意】

- ・本シートは「3.インベントリデーター」において活動量として電力消費量とした場合について、そのプロセスに係る**設備のリスト**を入力する。
- ・設備リストは1行に1種類の機器について記載すること。
- ・設備が用いられるプロセスに関する情報（カテゴリ、プロセス名、参照）、設備に関する情報（設備名称、台数、定格出力、負荷率）を記載すること。なお、消費電力は定格出力と負荷率の入力値より自動で計算される。
- ・以上の記載にあたり、補足情報等がある場合は備考欄に記載すること。

4-1.算出結果_温室効果ガス排出量の削減効果（製品バスケット法の場合）

改訂番号2

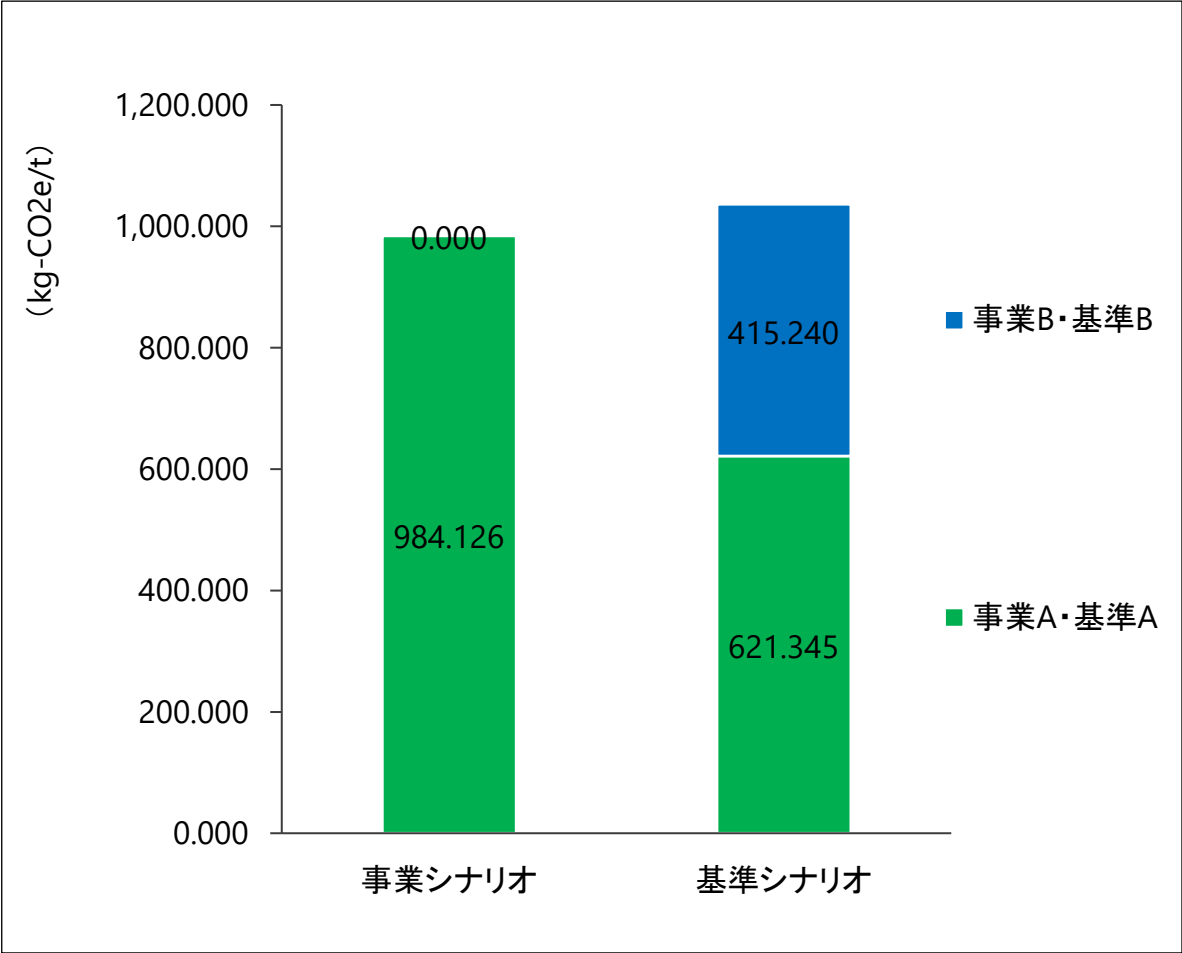
入力日令和8年9月1日

事業名：〇〇株式会社 混合廃棄物の選別・再生ペレット製造事業(類型3)

（１）温室効果ガス排出量の削減効果

①廃棄物1t当たりの削減量

カテゴリ	項目	排出量 (kg-CO2e/t)
事業A	事業シナリオの再資源化プロセス	984.126
事業B	基準シナリオに再資源化や熱回収の工程があり、事業シナリオにはその工程がない場合、その再資源化や熱回収によって得られる製品・サービスの天然資源・プライマリー材由来の製造プロセス	0.000
基準A	基準シナリオの処理プロセス	621.345
基準B	事業シナリオの再資源化と同じ製品・サービスの製造におけるプライマリー材での製造プロセス	415.240
温室効果ガス排出量の削減効果[kg-CO2e/t] (基準A+基準B)-(事業A+事業B)		52.458
温室効果ガス排出量の削減率[%] ((基準A+基準B)-(事業A+事業B))/(基準A+基準B)		5%



(2) 算出結果の詳細

活動量および排出係数については、「3.インベントリデータ一覧」に出典、算出方法等を記載すること。
フロー図上のカテゴリとプロセスのNo.を合わせて、記載すること。

①事業シナリオ

カテゴリ	No.	プロセス	活動量			排出係数			排出量 (kg-CO2e/t)
			参照No.	数値	単位	参照No.	数値	単位	
事業A	1	高度選別（AI選別）	a	0.840	kWh	b	0.423	kgCO2e/kWh	0.355
	2	その他選別	a	45.700	kWh	b	0.423	kgCO2e/kWh	19.331
	3	再生ペレット製造	a	2,280.000	kWh	b	0.423	kgCO2e/kWh	964.440
	4	埋立	a	0.240	t	b	0.000	kgCO2e/t	0.000
合計									984.126

カテゴリ	No.	プロセス	活動量			排出係数			排出量 (kg-CO2e/t)
			参照No.	数値	単位	参照No.	数値	単位	
事業B	1	—	a	—	—	b	—	—	0.000
合計									0.000

②基準シナリオ

カテゴリ	No.	プロセス	活動量			排出係数			排出量 (kg-CO2e/t)
			参照No.	数値	単位	参照No.	数値	単位	
基準A	1	手選別	a	320.000	人時	b	0.000	kgCO2e/人時	0.000
	2	その他選別	a	28.900	kWh	b	0.423	kgCO2e/kWh	12.225
	3	再生ペレット製造	a	1,440.000	kWh	b	0.423	kgCO2e/kWh	609.120
	4	埋立	a	0.520	t	b	0.000	kgCO2e/t	0.000
合計									621.345

カテゴリ	No.	プロセス	活動量			排出係数			排出量 (kg-CO2e/t)
			参照No.	数値	単位	参照No.	数値	単位	
基準B	1	PPペレット製造	a	0.280	t	b	1,483.000	kgCO2e/t	415.240
合計									415.240

4-2.算出結果_温室効果ガス排出量の削減効果（負荷回避法の場合）

改訂番号2

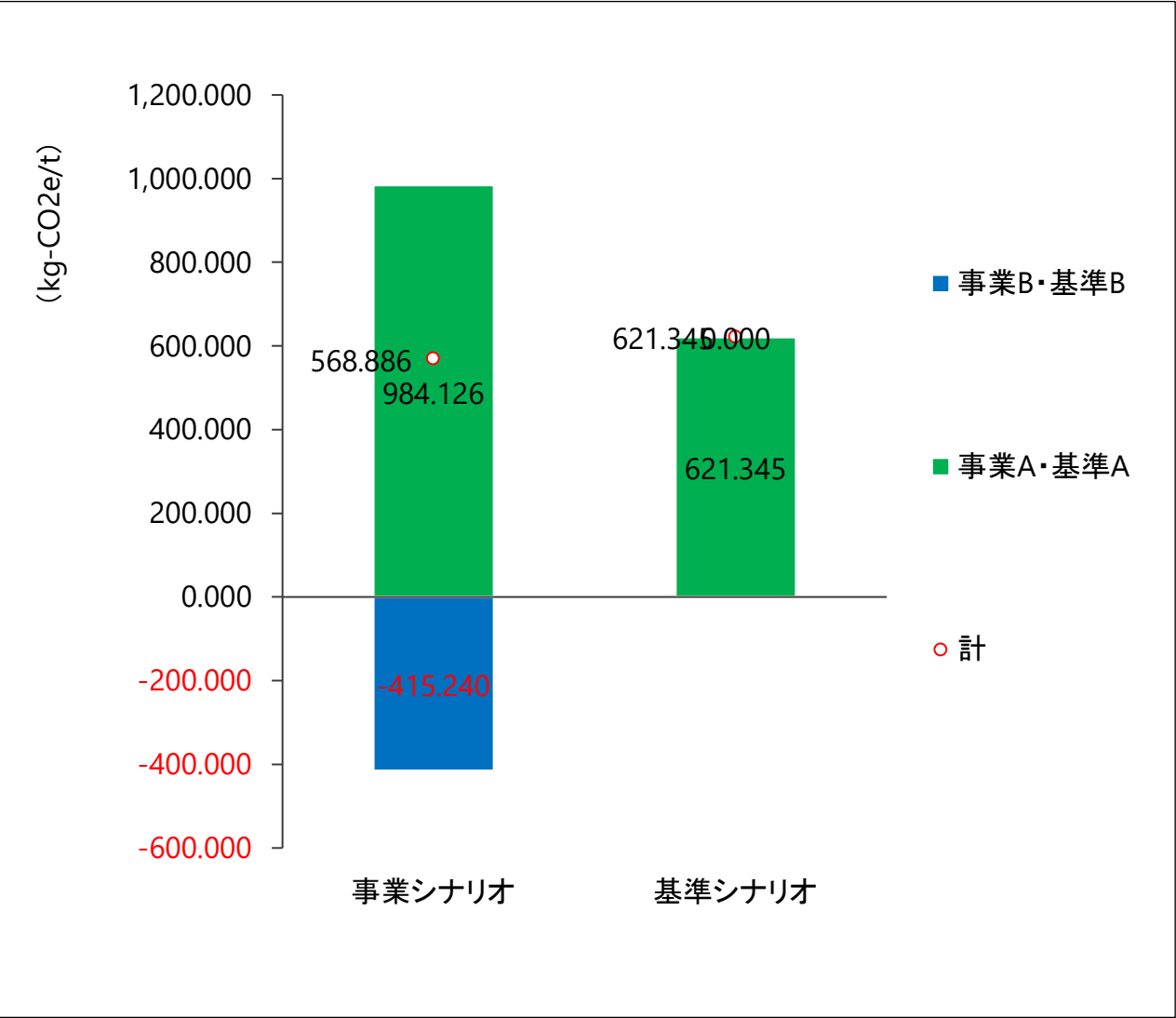
入力日令和8年9月1日

事業名：〇〇株式会社 混合廃棄物の選別・再生ペレット製造事業(類型3)

（１）温室効果ガス排出量の削減効果

①廃棄物1t当たりの削減量

カテゴリ	項目	排出量 (kg-CO2e/t)
事業A	事業の取組実施による温室効果ガス排出量	984.126
基準B	事業シナリオの再資源化と同じ製品の製造における、プライマリー材製造工程での温室効果ガス排出量(負の排出量として計上)	-415.240
事業A＋基準B		568.886
基準A	廃棄物の適正処理、再資源化又は熱回収の工程での温室効果ガス排出量	621.345
事業B	基準シナリオで再資源化や熱回収が行われていたと設定した場合に、従来の処理が行われなくなってしまうことを補うために必要な工程での温室効果ガス排出量（負の排出量として計上）	0.000
基準A＋事業B		621.345
温室効果ガス排出量の削減効果[kg-CO2e/t] (基準A＋事業B)-(事業A＋基準B)		52.458
温室効果ガス排出量の削減率[%] ((基準A＋事業B)-(事業A＋基準B))/(基準A＋基準B)		25%



(2) 算出結果の詳細

活動量および排出係数については、「3.インベントリデータ一覧」に出典、算出方法等を記載すること。
フロー図上のカテゴリとプロセスのNo.を合わせて、記載すること。

①事業シナリオ

カテゴリ	No.	プロセス	活動量			排出係数			排出量 (kg-CO2e/t)
			参照No.	数値	単位	参照No.	数値	単位	
事業A	1	高度選別（AI選別）	a	0.840	kWh	b	0.423	kgCO2e/kWh	0.355
	2	その他選別	a	45.700	kWh	b	0.423	kgCO2e/kWh	19.331
	3	再生ペレット製造	a	2,280.000	kWh	b	0.423	kgCO2e/kWh	964.440
	4	埋立	a	0.240	t	b	0.000	kgCO2e/t	0.000
合計									984.126

カテゴリ	No.	プロセス	活動量			排出係数			排出量 (kg-CO2e/t)
			参照No.	数値	単位	参照No.	数値	単位	
基準B	1	PPペレット製造	a	0.280	t	b	1,483.000	kgCO2e/t	415.240
合計									415.240

②基準シナリオ

カテゴリ	No.	プロセス	活動量			排出係数			排出量 (kg-CO2e/t)
			参照No.	数値	単位	参照No.	数値	単位	
基準A	1	手選別	a	320.000	人時	b	0.000	kgCO2e/人時	0.000
	2	その他選別	a	28.900	kWh	b	0.423	kgCO2e/kWh	12.225
	3	再生ペレット製造	a	1,440.000	kWh	b	0.423	kgCO2e/kWh	609.120
	4	埋立	a	0.520	t	b	0.000	kgCO2e/t	0.000
合計									621.345

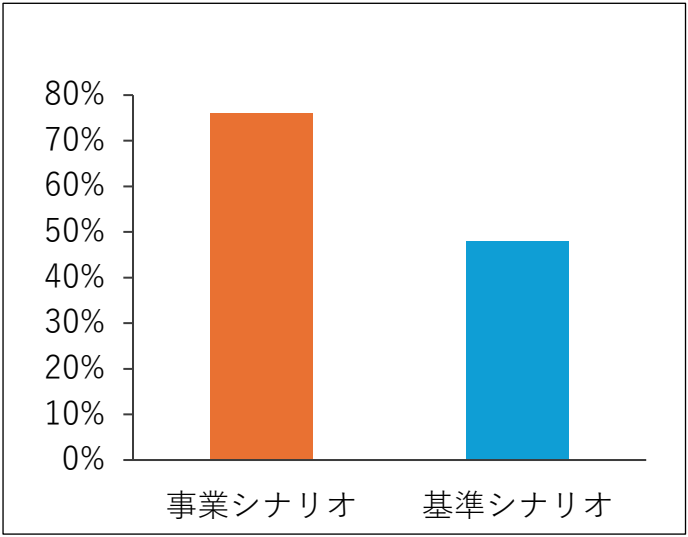
カテゴリ	No.	プロセス	活動量			排出係数			排出量 (kg-CO2e/t)
			参照No.	数値	単位	参照No.	数値	単位	
事業B	1	—	a	—	—	b	—	—	0.000
合計									0.000

事業名：〇〇株式会社 混合廃棄物の選別・再生ペレット製造事業(類型3)

（１）資源循環の効果

①廃棄物1t当たりの資源循環の効果

項目	事業シナリオ	基準シナリオ
廃棄物の処理量（t）	1.000	1.000
再生材製造量（t）	0.760	0.480
再生材製造量/ 廃棄物の処理量（%）	76%	48%
資源循環の効果 ＝事業シナリオ－基準シナリオ		28pt



（２）算出結果の詳細

活動量等については、「3.インベントリリーダー一覧」に出典、算出方法等を記載すること。

①事業シナリオ

No.	再生材製造量（t）		
	項目名	数値	単位
1	再生ペレット	0.760	t
合計		0.760	t

②基準シナリオ

No.	再生材製造量（t）		
	項目名	数値	単位
1	再生ペレット	0.480	t
合計		0.480	t

6.改訂履歴

改訂番号2

入力日

令和8年9月1日

改訂月	改訂番号	改訂内容
令和7年11月	0	暫定版公表
令和7年11月	1	正式版公表
令和8年9月	2	改訂版公表